

◆次第：①開会、②議事、③その他

◆議事：①部会の進め方及び第6次総合計画の体系イメージについて、②まちづくりの視点について、
③めざすまちの姿について

◆審議概要：

①部会の進め方及び第6次総合計画の体系イメージについて

- 部会案を事務局に一任するというのはどうなのか。
→第2回部会の意見の反映について、部会長と事務局に一任いただきたいということであり、あくまで部会素案である。完成ではなく、改めて審議いただく場はある。
- 関係機関からの意見をどのように吸い上げるのか。
→それぞれの分野から本審議会の委員になっていただいている。それ以外の関係団体については、パブリック・コメントでご意見をいただく。

②まちづくりの視点について

- 10歳未満と30歳代が転入超過、20歳代は転出超過となっている。10歳未満と30歳代の転入が多いという特色を消してはいけないと思う。
- 自分の子どもや孫が宝塚市に住むためにはどういう方向を出したら良いかが基本的な眼目だと思う。
- 近隣市から市民を取ってくるくらいの気迫が必要である。
- 女性の起業講座を充実してもらいたい。
- 高齢者が増えていく見込みの中、子どもに対する施策を充実するのか高齢者に対する施策を充実するのか議論になるところである。
- 産業立国ではなく、他にはない柱が必要ではないか。住民税だけでなく、稼ぐことが必要と思う。
→定住社会で良いというのは、その地域の内発性を最大限に生み出すことが一番の眼目。地域資源をどれだけ掘り起こして、発揮させていくかという視点。
- まちづくり協議会の条例化があるが、自治会の扱いが大きくないことがいびつではないかと思う。
- 働く場所をどうつくっていくかという視点がないとじり貧になる。
- 障碍(がい)の方や引きこもりの方など、舞台上上がれない方たちもいる。高齢社会では身近なところで舞台が必要。小学校区のまちづくりと、バランスよく地域でつくっていくということをどう捉えるか。

(2) めざすまちの姿について

【安全・都市基盤】

- 災害時に避難行動を自分主体で起こしていける高齢者をつくっていかないといけない。
- 長寿ガ丘は地形上、地域の小学校に逃げてこれられない。あらゆる人が避難できるようにしていく必要がある。
- 自治会の所属する防災会を充実していく必要がある。
- 地域の方を守るのは具体的に誰なのか、みんなが知っておく必要がある。
- 若い世代の人が住みやすい住環境の整備ということを盛り込んでもらいたい。

→デベロッパを巻き込んで、若い世代が住みたいと思える住環境を整備することを取り入れては。

- 自助、共助が大事といわれているが、公助が自助や共助を促進するという循環が求められると思う。
- 公助の上に、自助、共助の互助が成り立ち、互助の中に自助が育つという、三つの関連を基本姿勢として、言葉を丁寧にする必要がある。
- 例えば、3日間の備蓄を備えているや防災訓練の回数というような具体的な指標で成果が測れる防災のプランにしていけることが望ましいのではないかな。
- 高齢者の単身世帯の増加が進んでいるが、24時間365日支えるサービスが十分に育っていないので、サービス付き住宅が無制限に建っている。住宅政策に福祉的な視点が入っていない。要介護になっても安心して暮らせるまちづくりが必要。
- 避難がスムーズにできるかという視点も住環境を考える上では必要。
- 京都市のマンションの自治会加入率は70%あり、大阪は30%。両市の都市政策の違いである。どちらを取るのか。スプロール化は、地域を壊すことにつながる。
- 極端な話であるが、路面電車を導入し、自動車による市内の移動を抑制して交通渋滞を解消するという考え方もある。交通システムそのものを見直していくことも必要ではないかな。

【健康・福祉】

- 地域福祉、高齢者福祉、障害（がい）者福祉という横並びの表現は、古いタイプである。まとめ方で検討が必要。
- 健康という概念はさまざま。その人らしく暮らせるというのは納得できるが、健康でなければならないというのは気になる。一人一人が、例えば一人暮らしであろうと、高齢であろうと、障害（がい）であろうと、もしくは、他人同士で住もうと、いろんなつながりを持つ方々が、このまちで気持ちよく暮らせることを目標にするのは良いと感じる。
- 健康は、いろんなかたちで、いろんな状態の人が、それでもなおかつ、このまちで住み続けて、それに喜びを感じるという意味で捉えるべきである。
- 高齢者や障害（がい）者のみならず、働いている若者も含め、どんな人にも活躍の場面があるという意味での「健やかさ」というものになれば良いと思う。
- 健康とは強制的であってはならず、内発的なものとして捉える必要がある。
- 介護保険による支出の金額を指標として掲げてはどうか。
- 女性より男性高齢者の方が閉じこもりがちで、福祉のお世話になる人が多い。外に出る機会が増えればそれを減らすことができる。
→福祉のお世話になるのが悪い訳ではない。
- 昨今、マンションが増えており、自治会だけでなく、マンション管理組合の参画も考えないといけない。
- 地域福祉計画に「全ての人が互いを認め合い。支え合い、共に輝き続ける安心と活力のまち、宝塚」という基本理念があり、全て網羅していると思う。
- 若者福祉がない。若者の貧困の問題など、若者の施策がない。
- 介護が必要な方や障害（がい）の方を補助したら、介護保険料をまけてあげるという施策をしているところがある。
- 福祉というのはある意味幸せであるということだと思う。若者の貧困、就労問題も含めて幅広く捉えて

はどうか。

- 法律上、18歳を超えたら児童福祉を抜けてしまう。フレミラも18歳から22歳の間は使えない。気軽に集える場所がない。
- 若いお母さんを助ける施策をすれば若い人が集まってくる。若い人の福祉を考えるということをしてはどうか。
- 古いライフスタイルをイメージしては若い人は呼べない。一人暮らしでも楽しく、そのまちで多様な世代の人と友達になれるとか、仕事をつくり出せるだとか、そういう発想が必要である。
- 外国人が増えており、外国人の福祉施策も必要ではないか。また、学校における多文化共生もしていないといけない。
- 保育や介護をする従事者に対する福祉施策も考えないといけないのではないか。そこで働きたいと思えるようになれば、若者の定住にもつながる。
- 社会保障の今後の展開としては、孤立者を減らしていくという視点を盛り込んでいただきたい。
→社会参加、社会に役割を持つということがキーワードとして考えられる。

【教育・子ども・人権】

- インクルーシブ・エデュケーションの視点をめざすまちの状態の中でつukれないかと思う。
- ボール遊びをしてはいけないなど、禁止事項だらけの公園が多い。子どもや若い世代が集え、高齢者も見守る、そういった展開ができればよい。
- 体罰などの子どもの人権を侵害するような教育はしないということはぜひ加えていただきたい。
- 外国にルーツのある子どもの人権、多文化共生も言及していただきたい。
- 宝塚市は児童館が盛んなので、まちの強みとして売ってもよいのではないか。宝塚市の児童館はそれぞれの地区にあり、乳幼児の子育て支援拠点が同じところにある点に特徴がある。子育ての切れ目がない。
- 子育てがしやすいまちづくりが必要。みんなで子育てする。
- 学校に行かない子どもも増えている現実を認めながら、どういう受け皿をつくっていきけるか。
- 障碍（がい）者スポーツの推進も入れていただきたい。
- 男女共同参画推進センターが学生の勉強の場所として使用されており、本来の目的で使われていないなどの課題がある。
→男女共同参画に関わる人しか来たらいけないとなったときに、男女共同参画は衰退すると思う。排除しては、これからの世の中やっていけない。
→多機能化をしていかないといけない。大人と若者、高齢者と子どもが交じりあう等、そういう制度や仕組みを作っていないと、縦割りでは、人口減少社会の中では厳しい。
- 地域教育も大事である。学校、家庭、地域の連携。学校教育を見ていると、地域は単にお手伝いという感覚しか持っていない。
- 「ゆりかごから墓場まで」と考えた時に、分野を細かく分けしないで、一つにまとめられないかを感じる。そうすれば、市も地域もうまく予算が使えるのではないか。例えば、地域に合計1千万円なら1千万円を渡し、使い方は地域で決めるといったことも考えられる。

【事務局】

宝塚市役所 企画経営部 政策室 政策推進課